

令和元年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目1: 作品～資料収集・環境管理・保存～

計画		実施		検証		今後の対策			
5カ年計画	評価指標	令和元年度の取組み	実績	自己評価	課題・原因				
開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。 ○現代の多様性を示す優れた作品 ○地域の美術史を構築する上で欠かせない作品 ○近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完	○美術作品の収集内容	①既存コレクションを充実・補完するための作品・関連資料を収集する。	・購入作品は無かったものの、寄贈については青柳喜兵衛、江藤幸男、寺田政明、中村研一、平田逸治、平野遼、藤野忠利ら、収蔵作家7名について、新たに計131件の作品の寄贈を受け、既存コレクションを充実させることができた。	調査研究、展覧会開催の成果として収蔵に結びついたものとして評価できると判断した。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市ゆかりの作家や、企画展関連作家の作品に厳選して収集することができた。</li> <li>・これまでに当館が収集研究を続けてきたことが、所蔵者や遺族からの寄贈につながったものと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集方針に基づき、持続可能な収集活動を目指す。</li> <li>・限られた収集予算のなかで優れた作品を厳選する。</li> <li>・寄贈作品の受入れについては、基準を厳密化していく。</li> </ul>
		評価							
A									
②令和元年度の自主企画展にあわせて、サイトウマコトに関連する作品・関連資料を収集する。	企画展出品作も含む、サイトウマコトの版画作品144件を新たに収蔵した。								
所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。	○修復作品の内容・選定理由	①緊急性の高い作品から順次修復を行う。	海老原喜之助の《靴屋》油彩1点の修復を行った。	緊急性の高い作品として修復を行うことができた。また、収蔵庫内の点検と清掃を週1回のペースで通年行い、収蔵庫内の環境を常に把握することができている。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要修復作品リストの中から、前年度と前々年度は展覧会出品作品を優先したが、当年は予定どおり、優先順位上位の作品を処置することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降の出品予定、貸出予定を想定し、修復を計画的に進める。</li> <li>・引き続き日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。</li> </ul>
	評価								
A									
○収蔵庫の環境整備状況	②日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。	週1回のペースで、学芸員による収蔵庫内の清掃作業および保管環境の安全確認を行った。							
当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館50周年となる2024年の一般公開を目指す。	○データベースの整備と公開に向けた取組みの状況	①作品データベースの資料作成、精査を行う。	改修工事にあたり、作品の収蔵場所が変わったため、新しい保管場所のデータを作成し、データベースを更新した。またコレクション展および他館に貸出した作品の出品歴を入力できるようにし、前年度に引き続きデータの入力を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に取り組んではいるが、公開する状態に至るには進捗が遅れている。</li> </ul>	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>C</td></tr> </table>	評価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品データベース、図書データベースのいずれも努力を続けているが、作業量に対してのマンパワーが不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンパワー不足については、予算要求を続けるとともに、スケジュールや規模など計画自体の見直しも検討する必要がある。</li> </ul>
		評価							
		C							
②図書データベースの資料作成、精査を行う。	新規受け入れ図書の登録、配架を行った。また、データ化されていない過去の図録の入力作業を一部行った。								
③作品・図書をよりよく運用するための整理を行う。	図書データベースの整備にあたり、日本人作家、外国人作家に関する書棚を総点検し、配架図書の整理と重複図書の間引きを行った。								
				総合評価					
					B				

(評価) A: 大変良い B: 概ね良い C: やや悪い D: 大変悪い

令和元年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目2: 公開～調査研究・展覧会～

計 画		実 施		検 証		今後の対策			
5カ年計画	評価指標	令和元年度の取組み	実 績	自己評価	課題・原因				
企画展やguest roomを通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。	○作家についての調査内容	①コレクション展における特集展示「guest room」第4回展を開催する。	・目標とした特集展示「guest room 004 AKI INOMATA 相似の詩学——異種協働のプロセスとゆらぎ」では、作家との対面調査も十分に行い、個性ある展覧会を実現した。 ・次年度以降の企画や収集についても計画的に調査を進めた。展覧会開催の調査(17件)、作品・資料等の収集の調査(7件)、所蔵作家・作品の調査(17件)、教育普及に関する調査(1件)を実施した。	・目標の展覧会の開催を達成できた。 ・次年度以降の作家、作品調査も実現できた。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	・当該年度の企画展、コレクション展に限らず、今後の展覧会も見据えた多様な作家、作品調査を実現できた。	企画展調査は数年越しの長期に及ぶため、計画性をもって進める必要がある。
評価									
A									
所蔵作家に関する対面調査、資料収集を蓄積し、研究論文、口頭発表等を行う。	○研究成果の件数・内容	①サイトウマコト、高橋秀の自主企画展にあたり、論文公開や口頭発表を行う。	・論文等発表件数 6件 ・口頭発表件数 11件 ・自主企画展や共同企画展の図録に論文を掲載するなど、幅広い媒体で研究成果を発表することができた。	・件数、内容ともに、例年に遜色ない成果をあげることができた。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	・自主企画展や共同企画展、その他の場において、論文執筆や口頭発表することができた。	・継続して調査研究を続け、テーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。
評価									
A									
調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。	○企画の内容	①テーマの異なる3つのコレクション展(寺田政明、サイトウマコトのグラフィック、鉄)を開催する。	・「特集 没後30年 寺田政明 描く故に我あり」では当館所蔵作品から寺田の全貌を紹介した。「特集 サイトウマコトのグラフィック」では初期の版画を展示し、自主企画展「サイトウマコト 臨界-Criticality-」の新作と連動させる試みを行った。「特集 鉄」は北九州と鉄との関わりをキーワードと所蔵品からひも解く構成で、来場者から大変好評を得たが、コロナ感染拡大により開幕から5日間で臨時休館となったことは惜まれる。	・件数、内容ともに、例年に遜色ない成果をあげることができた。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	・自主企画展での取組みに加え、コレクション展でも「特集展示」という形で所蔵品の魅力を引き出すための努力を成果として出すことができたと考えられる。 ・また、小学生を対象とした「ミュージアムツアー」を想定しつつ、一般にも見ごたえある構成を心がけた。	・継続して調査研究を続け、テーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。
評価									
A									
他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。	○連携の件数・内容	①サイトウマコト展、高橋秀、藤田桜展、堂本印象展において、他館等との連携企画を開催する。	・所蔵館と連携したオリジナル企画による「日本画の革命 児堂本印象1891-1975」を開催した。 ・作家、関連機関との調査研究の成果として「サイトウマコト 臨界-Criticality-」を開催した。 ・他館と協同しての調査研究の成果として「高橋秀+藤田桜 素敵なふたり」を開催した。 ・「高橋秀+藤田桜 素敵なふたり」は(2019年美連協奨励賞)を受賞した。	・件数、内容ともに、例年に遜色ない成果をあげることができた。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	・「高橋秀+藤田桜 素敵なふたり」は(2019年美連協奨励賞)を受賞した。	・共同企画展の場合、巡回としての立ち上がり時期と当館での開催時期が異なる場合が多いため、業務の繁忙期を見極め、スケジュール調整していく。
評価									
A									

(評価) A:大変良い B:概ね良い C:やや悪い D:大変悪い

総合評価
A

令和元年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目3:交流～教育普及・地域交流～

計画		実施		検証		今後の対策									
5カ年計画	評価指標	令和元年度の取組み	実績	自己評価	課題・原因										
<p>教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。</p>	<p>○参加校の満足度 ○実施状況(②のみ)</p>	<p>①全市立小学校3年生を対象に「ミュージアム・ツアー」を実施し、対話型鑑賞を實踐する。30年度の実施結果を踏まえ、ツアー開始時間等の見直しを行うと同時に、ガイドについては習熟を図るため、フォローアップ研修を実施する。</p>	<p>○ミュージアム・ツアー参加校 130校/131校(1校 学校行事の為中止) ○アンケートの結果 ・参加について 130校中129校が「満足」「やや満足」と回答 ・子どもたち反応について すべての学校が「満足」「やや満足」と回答 ・実施日について 7校が「不満」「やや不満」と回答 ○平成30年度からの変更点 実施時間の変更 実施時期の拡張 事前打合せ方法の変更 特別支援学校の来館 フォローアップ研修の実施</p>	<p>評価 A</p>	<p>「不満」「やや不満」と回答する月が限定されることから、学期末に実施することが原因だと思われる。</p> <p>昨年と比較して教員の美術館マナー(撮影、作品接触等)の悪さがガイドスタッフから指摘されている。</p>	<p>学期末に実施する学校への配慮を行いたい。 学校教員に向けた研修を検討する。 今後、新型コロナウイルス対策を講じたミュージアム・ツアーの実施が必要となる。</p>									
		<p>②現行のミュージアム・ツアーのプログラムにのちのたび博物館を加えることにより、社会見学プログラムとしての要素を付加し、学校が参加しやすいツアーを試行実施する。</p>	<p>○ミュージアムパークツアー参加校 29校 ※ミュージアムパーク・ツアー ミュージアム・ツアーに博物館を加えたプログラム</p>				<p>アンケートの結果、参加については130校中129校から「満足」「やや満足」との回答を得られたことから参加校の満足度は高いと思われる。ただ実施日については7校が「不満」「やや不満」の回答しており、それが7月・12月に集中している。</p> <p>午後の開始時間を見直したことで、給食時間の調整に関する問題は解決された。</p> <p>ミュージアムパーク・ツアーについては、参加校130校のうち、29校であった。ただ、この事業は博物館のボランティアが担っており参加校は30校程度に絞られる。</p>	<p>子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。 また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。</p>	<p>○参加者の満足度</p>	<p>①にじいろのさかな展と連動したワークショップを行う。</p>	<p>・分館「にじいろのさかな原画展」と北九州市立水環境館の2館を会場に、同館と連携したワークショップ「にじいろのさかなをウォッチング！」を企画開催した。絵本の世界を楽しみ、実際の水生生物への理解も深める内容で、家族での参加も多く好評であった。口頭での満足度アンケートでほぼ全ての回答者が満足との回答を得た。 ・参加者33人</p>	<p>評価 A</p>	<p>・「ぬいかけの植物園計画室」ではリピーターの参加など、継続開催の成果が出ている。 ・講演会では「千住博展」220人、「倉本聰展」447人、「サイトウマコト展」103人、「高橋秀+藤田桜 素敵なふたり展」200人など、話題性の高いイベントを開催した。反響も大きく、充分な手ごたえがあった。</p>	<p>・さまざまな年齢やジャンルを意識した多彩な企画を今後も用意する。</p>	<p>②各展覧会で講演会やギャラリートークを行う。</p>
<p>子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。 また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。</p>	<p>○参加者の満足度</p>	<p>①にじいろのさかな展と連動したワークショップを行う。</p>	<p>・分館「にじいろのさかな原画展」と北九州市立水環境館の2館を会場に、同館と連携したワークショップ「にじいろのさかなをウォッチング！」を企画開催した。絵本の世界を楽しみ、実際の水生生物への理解も深める内容で、家族での参加も多く好評であった。口頭での満足度アンケートでほぼ全ての回答者が満足との回答を得た。 ・参加者33人</p>	<p>評価 A</p>	<p>・「ぬいかけの植物園計画室」ではリピーターの参加など、継続開催の成果が出ている。 ・講演会では「千住博展」220人、「倉本聰展」447人、「サイトウマコト展」103人、「高橋秀+藤田桜 素敵なふたり展」200人など、話題性の高いイベントを開催した。反響も大きく、充分な手ごたえがあった。</p>	<p>・さまざまな年齢やジャンルを意識した多彩な企画を今後も用意する。</p>									
		<p>②各展覧会で講演会やギャラリートークを行う。</p>	<p>・多くの講演会やギャラリートークを通じて、作品理解の場を提供し、来館者との交流を図ることができた。 ・講演会 11回 参加者2,175人 ・ギャラリートーク 32回 1,171人 (うち、外部講師13回、当館学芸員19回)</p>												
		<p>③長期ワークショップ「ぬいかけの植物園計画室」を実施する。</p>	<p>・毎年恒例となった「ぬいかけの植物園計画室」では、リピーターも増えた。口頭での満足度アンケートでほぼ全ての回答者が満足との回答を得た。 ・ワークショップ 4回、2日間 参加者126人</p>												
		<p>④美術館の役割を知ってもらうための「美術館探検」を行う。</p>	<p>・館内を探検しながら美術館の役割を知ってもらうイベントとして「ミュージアム・ピクニック」を開催した。またボランティア「プロジェクト班」企画による同主旨イベント「探検スゴロク美術館?!」を開催した。 ・「ミュージアム・ピクニック」 4回 81人(アンケート19名中19名が満足と回答) ・「探検スゴロク美術館?!」 1回 17人(アンケート9名中9名が満足と回答)</p>												

令和元年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目3: 交流～教育普及・地域交流～

計画		実施		検証		今後の対策			
5カ年計画	評価指標	令和元年度の取組み	実績	自己評価	課題・原因				
現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。	○ボランティア制度の運営状況	①プロジェクト班、鑑賞サポート班、美術情報班の3班に分かれた、新たな体制でのボランティア活動を支援する。	・研修を受講したボランティア「めるく」メンバーは鑑賞サポート班、プロジェクト班、美術情報班の3つのグループに別れ、活動を行った。	・計画に沿って、順調に事業を進めることができた。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	・主な活動日を平日から週末へ設定し、各自の生活スタイルに合わせて参加できるよう、制度の見直しを図った。 ・各班の活動は順調に行われ、「探検スゴロク美術館!」などボランティアによる企画を開催するなど、具体的な成果もあげることができた。	・前年度の研修を経て、ボランティア活動が成果として出る段階まで順調に進めることができた。今後もボランティアの自主性を重んじながら事業を継続していく。
		評価							
A									
②ボランティア活動を充実させるための研修・講義を行う。	美術館の特色や、ボランティア活動への理解を深めるための研修や講義を行った。 ・学芸員によるレクチャー 9回 ・外部講師を招いた研修 1回								
他館、他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。	○参加者の満足度 ○実施状況	①北九州芸術劇場と連携し、コレクション展をテーマにした公演「切り裂かれたキャンバス」を行う。	○切り裂かれたキャンバス～「マネとマネ夫人像」をめぐる 会期:5月3日(金・振)～5月6日(月・振) 会場:本館エデュケーションルームA 入場者数:319人 ○参加者の満足度 「再観覧を希望するか」の質問に対し、84%が「はい」と回答。	参加者アンケートからは84%の方から「再観覧を希望する」との回答をいただいた。概ね満足度は高いと判断される。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	・被災地支援については、インリーチ事業のミュージアム・ツアーを検討していたが、協議会の中でアウトリーチ事業へ変更になったため実施しなかった。  ・アウトリーチでも対応できるワークショップ(小物づくり、版画等)の美術館独自のコンテンツ開発も必要である。  ・美術館も相互協力に加わっている「東田ミュージアムパーク事業」に対し、ワークショップと講演という形で参加協力を行った。	他館、他機関との連携をする場合、新型コロナウイルス対策を講じることが前提となるため連携内容については十分に協議が必要である。
		評価							
		A							
②朝倉市と共同した被災地支援(朝倉市の児童を対象にしたミュージアム・ツアー)の実施を検討する。	被災地の児童を美術館に招待するミュージアム・ツアーの実施について検討をおこなったが、福岡県館長連絡協議会加盟館との協議の中で、甘木歴史資料館で合同ワークショップを実施することになったため実施を見送った。ワークショップのブローチ作成コーナーに美術館コレクションの画像提供のみを行った。								
③東田ミュージアムパーク事業への協力	・「ミュージアムワークショップ シルクスクリーンでポストカードをつくろう!」参加者12人 ・ミュージアムワークショップ 消しゴムハンコで紙雑貨をつくろう!」参加者100人 (会場:東田大通り公園テント 10月26日11時～17時)  ・「博物館×美術館 棟方志功からの想像力」参加者30人 (会場:自然史・歴史博物館講義室 10月26日14時～16時)								
				<table border="1"> <tr><td>総合評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	総合評価	A			
総合評価									
A									

(評価) A:大変良い B:概ね良い C:やや悪い D:大変悪い

# 令和元年度北九州市立美術館運営評価シート

## 評価項目4: 広報～利用促進のための情報発信～

計 画		実 施		検 証		今後の対策
5カ年計画	評価指標	令和元年度の取組み	実 績	自己評価	課題・原因	
<p>展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。 また、外国人向けの広報も充実させる。</p>	<p>○広報の内容 ○入館者数 ○アンケートの方法</p>	<p>①美術館に対する市民のニーズを把握するため、アンケート方法の見直しを行う。 (出口調査、館外での実施など)</p>	<p>○館外アンケートの実施 場所:小倉駅観光案内所 期間:1月6日～1月25日 人数:100名 ○出口調査は実施しなかったが、アンケート回収率を高めるため「素敵なふたり」展においてアンケート用紙の窓口での手渡し及びインセンティブとして回答者には絵葉書をプレゼントした。</p>	<p>美術館に対するニーズを把握するため、館外アンケートを実施。  出口調査は実施しなかったが、アンケート回収率を高める取り組みを実施した。  市民センターへPRを行い、2館から来館の希望があった。市民センターの生涯学習事業についてはある程度のニーズがあると思われる。  インバンドパンフについては、積極的に活用できなかった。</p>	<p>評価 B</p> <p>課題・原因  アンケートによって得られたデータを今後の美術館運営に活用する。  SNSを利用した広報については、どのくらいの方がみて、どのくらいかの反応があったのか等の評価の指標が必要である。  旅行会社については、展覧会の内容によるところが大きい。いつ、どこの地域の旅行会社にPR活動を行うか今後の課題である。</p>	<p>団体客誘致、SNSの活用等の広報活動については、現状を踏まえコロナ終息後を見据えてた対策を検討する必要がある。</p>
		<p>②美術館公式ツイッターまたはフェイスブックの開設を検討する。</p>	<p>○美術館の公式ツイッターは開設せず企画展毎の公式ツイッターを開設した ・千住博展 入館者数 23,517人 ・堂本印象展 入館者数 6,632人 ・にじいろのさかな原画展 入館者数 14,194人 ○美術館公式のフェイスブックは教育普及事業のみ開設。</p>			
		<p>③旅行会社等への積極的なPR活動に努める。</p>	<p>・市民センター(生涯学習事業)に対しPR活動を実施した。 ・団体利用実績のあるカルチャーセンターをポスターチラシ発送リストに追加し、展覧会ごとにPRを実施した。</p>			
		<p>④インバウンド用のパンフレットを積極的に活用する。</p>	<p>英語版について3000部増刷し、市庁舎等に配置した。</p>			
<p>来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。 また、美術館友の会の活用を図る。</p>	<p>○連携の件数・内容</p>	<p>①他館と連携した割引特典等の企画を実施する。</p>	<p>2件 ・共催企画展「倉本聰の仕事と点描画展」において小倉昭和館と連携し倉本氏脚本の映画を上映。相互PRを実施した。 ・共催企画展「西元祐貴 北九州のキセキ」展の開催にあたり小倉城、小倉城庭園と連携し相互の割引特典を企画した。</p>	<p>他館と連携は2件のみ。 他館と連携した広報、情報発信については、十分にできたとは言えない。 友の会の会報誌には展覧会情報を掲載した。</p>	<p>他館との連携については、他館の情報収集を含めて1年前ぐらいから実施する必要がある。</p>	<p>常時連携する連携先の拡充を検討する必要がある。</p>
		<p>②美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。</p>	<p>美術館友の会会報誌を4回/年発行し、展覧会情報の発信を行った。</p>			
				<p>総合評価 B</p>		

(評価) A:大変良い B:概ね良い C:やや悪い D:大変悪い

令和元年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目5：環境～快適なアメニティ空間の演出～

計 画		実 施		検 証		今後の対策
5カ年計画	評価指標	令和元年度の取組み	実 績	自己評価	課題・原因	
美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。 また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。 加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。	○実施状況	①警備、清掃、受付・監視、設備等の現場会議を行う。	令和元年6月、警備、清掃、受付・監視、設備委託事業者との現場会議を実施。来館者への対応、施設の不備状況の再確認、不審車両への対応等について協議した。	<p>現場会議は1回の実施。美術館を適正に管理するためには、複数回実施し現場との意思疎通をとる必要がある。</p> <p>アネックス棟の改修工事予算については、予算要求を行ったが急遽本館美術品搬入エレベータの更新が必要となりエレベータ更新を優先させることになった。</p>	<p>アネックス棟は建築後33年を経過しており、老朽化が著しい。整備予算の確保に努める。</p>	<p>美術館については、ソーシャルディスタンスの確保、館内換気等の新型コロナ対策を十分に考慮した管理が求められる。</p> <p>対策を講じたうえで快適で安全な美術館空間の確保に努める。</p> <p>カード決済については、令和2年度に市と合同でキャッシュレス決済導入（スマホ決済）にむけた実証実験を実施する。</p>
		②老朽化に伴う事故を防止するため、建物（建築・設備・消防等）点検を徹底する。	特定建築物定期調査、建築設備定期調査、消防設備点検、電気設備精密点検を実施した。			
		③アネックス棟の整備計画を検討し、予算の確保に努める。	2か年にわたる整備計画を策定し予算要求を行った。			
		③消費税の引き上げにあわせ、来館者サービスの向上のためカード決済の導入について検討する。	カード決済について、数社の事業者ヒアリングを行った。			

総合評価  
B

(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い